



# FSCだより

北里大学獣医学部 附属フィールドサイエンスセンター

第 61 号 2016.5.16

## FSCの設立趣旨

土地、植物、動物及びそれらを取り巻く環境を生命系として教育・研究を行うとともに、これらの研究成果を通して、広く地域社会の発展に寄与することを目的とする。

## 十和田農場から

### めん羊の分娩無事終了

めん羊の分娩が無事終了しました。

毎年の恒例のめん羊の分娩時期を迎え、今年は11腹の分娩があり、無事14頭の元気な子羊が誕生しました。11腹のうち、7腹はサフォーク種（以下サフォーク）の純粋種、2腹はマンクス・ロフトン種（以下マンクス）の純粋、残りの2腹はサフォークとマンクスの雑種という内訳です。

昨年、試験的にサフォークの雌にマンクスの雄を交配させて分娩させたところ、顔つきや毛色にマンクスの面影を残しながらも、ほぼサフォークの子羊が生まれました。我々の狙いとしては、マンクスの「美味」と謳われる肉と稀少な茶色い羊毛を備えたサフォークのような大きな体格のめん羊の生産だったのですが、昨年の結果は少し残念なものでした。

そこで、今年は昨年生まれたF1の雌にマンクスの雄を戻し交配してみました。

結果は、写真1をご覧ください。



生後約1週間の写真ですが、一見サフォークのような容姿ですが、よく見るとマンクスのような小顔で、角が生えています。毛の色はまだどうなるかわかりませんが、しっぽもマンクスの特徴を受け継いで短めです。

写真1. 生後約1週間



写真2. 生後約1か月

生後約1か月の写真が写真2の2枚です。ここまで大きくなると、大分特徴が出てきています。写真では、わかりづらいですが、毛は茶色っぽくなってきて、顔もすっかりマンクスです。面白いことに、四肢の毛だけがサフォークの特徴である黒色です。肝心の大きさは、同時期に生まれたサフォークよりは小さめですが、体格はサフォークの血を受け継いでいるようなので、これからどのように成長していくのかが楽しみです。

今年生まれたのは雄2頭だったので、去勢をして来年の毛刈りで毛質を確認した後に、食味試験と合わせてサフォークとマンクスの純粋との肉質の比較などを試みたいと考えています。

### 八雲牧場から

#### 東都生協/新世代チャレンジプロジェクトにおける組合員交流会としての催事へ参加

1月22日に佐藤職員と小野係長が参加しました。

午前9時過ぎに会場に到着し、午前11時から交流会が開始され、午後2時まで行われました。

北里大学のほか、埼玉産直センター・奈良五條産直組合が産地として参加し、東都生協世田谷センター、江戸川センターの職員及び、東都生協組合員約20名が参加していました。

交流会は、各産地の食材を使った料理を組合員と産地職員が協力して作り、調理が終了した後、料理を食事しながら各産地の紹介スライドの発表および質疑が行われました。

交流会では、各産地の登録購入者とその産地の職員をテーブル囲んで座る形で、北里大学のテーブルには10名ほどの組合員が参加してくださいました。(佐藤職員報告書より)





## 農林水産大臣政務官が来場

農林水産大臣政務官である佐藤英道氏が1月31日（日）来場されました。

農林水産省のHP（[http://www.maff.go.jp/j/press/seisan/c\\_kikaku/160129.html](http://www.maff.go.jp/j/press/seisan/c_kikaku/160129.html)）にも掲載されています。

八雲牧場が実践する北里八雲牛の生産、資源循環型畜産の実践について、多くの質問をしていただきました。このように八雲牧場の取り組みは様々なところで注目され、来場者が年々増加しています。



## 北海道しゃくなげ会に参加

2月19日に札幌市で開催された北海道しゃくなげ会に、森岡主任が参加しました。

しゃくなげ会は、北海道内の獣医師や関係機関による勉強会で今回の演題の殆どは牛の繁殖に関するものでした。不受胎牛の治療や超音波診断機の利用やその効果について4題の発表があり、どれも興味深い内容でした。

## トマムウインターフェスタに出展

2月27～28日、トマムウインターフェスタに参加しました。

この企画は、全道各地から集まった畜産農家、野菜農家、チーズ職人、漁師など生産者10名が、こだわりの生産物を提供し、その素材を利用してフレンチやイタリアンのレストランのオーナーシェフやホテルの料理長などシェフ6名が全国各地から来た230名の来場者に対し、ビュッフェ形式で料理を振る舞うもので、NPO法人アグリキャラバンにより開かれました。食事中には、大画面で生産者インタビューの上映や料理を取りにきた人に、生産者やシェフが生産物の特徴を伝えるなどして、PR活動を行い、北里八雲牛を知っていただく、良い機会になりました。

写真は、北里八雲牛のミートローフの生チーズのせと、紹介ブースの様子です。



### 第15回北里八雲牛普及推進協議会総会を開催

3月18日には、第15回北里八雲牛普及推進協議会総会が行われました。

取引先であるマルハニチロ(株)、東都生活協同組合を始め、八雲町内の協力農家で結成されている北里八雲牛生産組合や関係機関など20名が参加し、今後の北里大学および町内産北里八雲牛の生産と消費について議論しました。

北里八雲牛の消費が順調に伸びている事を嬉しく思います。

(編集担当：畔柳 正)